

やさらぎの郷 さと



おめでとうございます
100歳のお祝い



企画第1弾【西棟編】
あなたの願いを叶えます

Inaugural
Greeting



園長就任挨拶

やすらぎの郷 園長 横山 慶一

profile

横山慶一（1992年西南学院大学卒業・同年福岡県赤十字血液センター入社・98年福岡県支部・2001年日本赤十字九州国際看護大学・02年久留米赤十字会館・04年看護大学・07年特別養護老人ホーム大寿園・12年特別養護老人ホーム豊寿園・13年支部・15年看護大学・17年今津赤十字病院・18年福岡赤十字病院・21年看護大学・22年九州ブロック血液センター・25年現職・筑紫野市在住・58歳）

このたび、令和7年4月1日付で特別養護老人ホームやすらぎの郷の園長を拝命しました横山慶一と申します。私は日本赤十字社に入職以来30余年にわたり、県内数々の日赤施設に赴任し様々な赤十字事業に携わってきました。この経験を活かしつつも、これまで培ってきたご利用者・ご家族・ボランティア・地域の皆様方との繋がりを第一に考え、当園が大切にしてきた温もりのある質の高い介護の実践に今後とも引き続きつとめてまいります。

日本赤十字社は、1877年（明治10年）前身の博愛社に始まり、まもなく創立150年を迎えようとしています。また、現在開催中の「大阪・関西万博2025」において、日本赤十字社は「国際赤十字・赤新月運動館」パビリオンの企画・

運営を担っています。実は万博は、1867年にフランス・パリで開催された万国博覧会で、博愛社の創立者である佐野常民がはじめて赤十字の展示に出会った原点ともいわれています。皆さまもぜひ今年のご旅行の計画に大阪、そして万博会場で赤十字の活動を体験される機会を作っていただければと思います。

私たちは、これまでの赤十字の歴史と伝統に甘んじることなく、昨今急速に変化する社会構造の中で、これまでの常識や経験、考え方にとらわれずに変えられるものは変えていき、一方で変わることのない赤十字の基本理念である「人道」の実現をここやすらぎの郷において継続してまいります。

大阪・関西万博2025（4月13日～10月13日（日）184日間・大阪 夢洲）



令和7年度

新人研修を 実施しました！

New Employee Training



この春より、やすらぎの郷の一員となった新人職員を対象に、事務・看護・介護のそれぞれの分野の研修を実施しました。

当施設の園長からは、「赤十字とは」を他者に説明できるように調べよう、というテーマでグループワークが行われ、改めて赤十字について考えることから研修がスタートしました。

事務課からはご利用者の皆さま、ご家族の皆さまに信頼いただくために必要不可欠なコンプライアンスの重要性についてなど、医務課からは高齢者の方に多い病気についてなど、口腔ケアの正しい方法を実践しながら学びました。歯を磨かれる側も、「口をずっと開けておくのは想像していたよりきつかった」といった意見も聞かれ、ご利用者さまの立場になって考える機会になりました。

介護課からは、ご利用者さまがこういった経緯で特養に入所されるのか、介護保険の役割やご利用者さまへの接し方など、共通理解を深めることができました。

また、救急法指導員を持っている職員が救急法の講習を行いました。正しい心肺蘇生の方法や施設内にあるAEDの場所などを確認し、緊急時には迅速で適切な対応を全員が求められることを再確認しました。

今回の研修で学んだことをそれぞれがこれからの業務に活かし、より良いやすらぎの郷を創っていきましょう！

（事務所広報委員 井下 真梨那）



家族懇談会



園長あいさつ

5月17日（土）に特別養護老人ホームの家族懇談会を開催し、32名のご家族様に出席いただきました。

今回の懇談会では、当施設の近況報告に加え、介護課長から「住み慣れた施設で最後までくらすということ」という福岡県の資料を基に人生会議の話や、医務課長からは老衰や施設での看取りについて説明させていただきました。

懇談会の最後には棟内の見学と棟内で導入しているICTの紹介や説明を行いました。ICT技術（見守りカメラや端末による記録など）を活用したサービス導入については、ご家族様からも高い関心が寄せられました。

アンケートで皆様から頂戴した貴重なご意見は、今後の施設運営において真摯に受け止め、施設理念にありますとおり、地域に密着した温もりのある質の高い介護の実践に努めていく所存です。今後も、ご入所者（ご家族）様が安心してお過ごしいただけるよう、職員一同、より一層の尽力をさせていただきますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

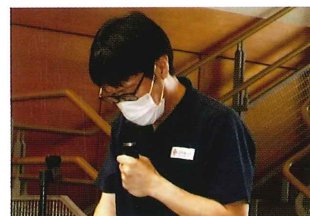
（生活相談員：行武 和洋）



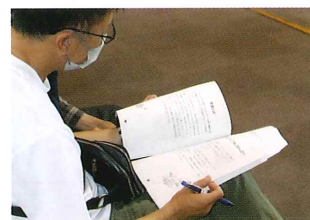
ご家族との面会



棟内見学及びICT機器の説明



介護課長



配布資料

家族懇談会後のアンケート（一部抜粋）

このごろ機嫌がよく、色々お世話になっているようです。ありがとうございます。

施設での看取りについて色々と考えさせられました。

看取りは最善だと思います。（施設看取り介護に対する意見）

介護に関する現状等を知れて良かったです。

看取りについて家族でもっと話し合いたいと思いました。いつもありがとうございます。

いつも看護（介護）にお心づかいを頂いていることにいつも感謝しております。施設で預かっていただいているので、私達は安心して生活ができています。看護（介護）は自分達ですることで、他人に面倒を押し付けるようで心苦しかったのですが、皆さんから「大丈夫ですよ、任せて下さい」と言われたことでどれだけ救いだったか。ほんとうにありがとうございます。私達にできることは何でも言うて下さい。これからもよろしくお願い致します。

甘いものが好きなので、おやつをお願いしたい（夕食の後など）

とても良いお話しをありがとうございました。

皆様へいつも感謝しています。ありがとうございます。皆様もお体に気を付けて下さい。

感染症のことで難しいとは思いますが、以前のように面会の予約をしながらも良いようになりませんか？予約となるとなかなか都合がつかなく、面会に通いづらい状況です。

食事をしている所を見たいです。ベッド上で食べているようなので、食事介助をどのようにしているのかを拝見してみたいです。

貴重な話を聞かせてもらい、大変ありがたかった。

／おめでとうございます／

100歳のお祝い!! (脇田トキ子様)

5月20日に100歳になられた東棟の脇田トキ子さん。

ご家族皆でご本人の100歳のバースデーを盛り上げるために、お部屋を飾り付けられ、いつもの研修室がまるでパーティー会場のように賑やかでした。



長女さんにインタビューをさせていただきました。

●どんなお母様でしたか？

「とても頑張り屋で努力家です。その分かなり厳しいというか、気が短いところがあって、相当私は怒られながら厳しく育てられました。」…と娘さん。

●トキ子さんの生い立ちと半生

7人兄弟の長女に生まれたトキ子さん。長女だったからこそのご苦労もあったようです。17歳の頃満洲に行っておばさんが経営する食堂を手伝っていました。そこでは受付や経理を任されていたそうです。運よく、その食堂を閉め戦争が終わる前に帰国したので戦後の混乱に巻き込まれることはなかったとのこと。



日本に帰国してからは専売公社でお勤めされ、真面目で一生懸命な性格を認められ経理に抜擢されました。そこで夫の清さんと知り合いました。二人は恋に落ち大恋愛だったそうです。でも、清さんはちょっとやんちゃだったそうで、周囲の人々から反対されましたが、反対を押し切って駆け落ち結婚、トキ子さん23歳、清さん24歳の時でした。



●二人の結婚生活のはずが

夫の清さんは次男でしたが長男さんが戦死されたため、長男の役目を背負っていました。清さんは優しい人だったので、姑さんと清さんの3人の妹達、そして清さん、トキ子さんに3人の子供さん、計9人家族で同居することになったそうですが、トキ子さんが一人で家族のお世話をしていたそうです。

「夏休みは親戚中子供の面倒を子供が好きだからやっていたみたいけどかなり大変そうでした。姑さんと組み合わせの喧嘩をすることもありました。」と長女さんも大変な様子をよく見られていたそうです。

清さんはタクシーの運転手など車関係の仕事をされていたそうです。お仕事はあまり続かず…そしてあまり家に帰ってこられず、トキ子さんも家計を支える為に日雇いの力仕事等をされていたとか。相当な苦労されていましたが、娘さんから見ると父のことが大好きで仕方ない様子だったそうです。清さんが30代で自動車修理工場を経営されご家庭が落ち着かれてからは、二人で色々な場所へ旅行に行かれていたそうです。

70過ぎた頃から、病気を患った父のお世話が難しくなる事が増えて、日常生活も難しくなりました。例えば水道出しっぱなしだったりガスがつけっぱなしだったり…しばらくは訪問介護を利用したりしていましたが、骨折して入院され、その後やすらぎの郷に入所されたそうです。

「夫婦一緒に入所できて、父も同じ場所で最後は一緒にいれて本当に良かったです。」



●今後どのように過ごしてほしいですか？

「今のまま穏やかに過ごしていければ…最期の時は泊りがけで来たいです。できる事はしてあげたいです」と長女さん。

※まだまだ食欲も旺盛でとてもお元気なトキ子さん。ご家族とたくさん素敵な時間を過ごしていただけるよう、私たちが精一杯支援していきたいと思いました。

(東棟広報委員：渡邊 美佐、安高 杉菜)

デイサービス

赤組

Day Service



デイサービス 運動会

今年の運動会も笑顔と歓声に包まれ、大成功となりました。玉入れやスプーンリレーでは、皆さんの協力が光り、白熱した戦いが繰り広げられました。

職員対抗の二人三脚では、息を合わせた熱戦が繰り広げられ、大盛り上がり!!

なりきりゲームでは、ユニークな仮装や演技に笑いが絶えませんでした。

「楽しかった!」「また参加したい!」という声が多く聞かれ、心も体も元気になる素敵な時間となりました。

ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました!

次回もお楽しみに!

(デイサービス広報委員 山下 晋平)

白組





あなたの願いを叶えます!!

We will make your wishes come true

企画第一弾 ～西棟編～



今回、西棟から「願いを叶える入所者様」は、柴田静香様です。

普段から棟内を歩かれている際、中庭の花や外の景色を眺めている姿をよく拝見していたため、「お花は好きですか？」とお尋ねしたところ、笑顔で「花を見るのは大好き。」との返事をいただきました。そこで、「何かしてみたいことはありますか？」と聞いてみると、「どこかに外出したい」とのことで、今回この企画に参加していただくこととなりました。

Start

1

「どこかに外出したい」と、具体的な場所の要望はありませんでしたが、気分転換にもなるような場所を探し、大好きなお花も咲いているという事もあり、粕屋町にある駕与丁公園のバラ園散策を行いました。

当日は天気にも恵まれ、気持ちのよい公園散策日和でした。バラ園も一番きれいな時期からは過ぎてしまっているものの、まだまだ奇麗に咲いており、数種類のバラの花や、紫陽花などの色が交りあって、明るく鮮やかな景色が広がっていました。



2

駕与丁公園までの車中で、柴田様に色々とお話を伺いました。柴田様は、宗像市の東郷のご出身で、北九州市の折尾にある女学校を卒業したそうです。卒業後はお弁当屋さんで働き、美味しいご飯をたくさん作っていたそうです。また、当時住んでいた団地の兼ね合いで農業をお手伝いし、泥だらけになりながら、お米をたくさん作っていたお話も聞かせていただきました。



3

公園に到着すると、「ここはどこなの～?」「湖?池?おおきかね～!」と大喜びされていました。バラ園を散策すると「バラがきれいー。すごくたくさん咲いている!」、展望台に登ったら、「山がきれい。池が大きい～」と歓声が上がっていました。また、公園にお母さんと訪れていた2歳の男の子や、散歩に来ていたワンちゃんとも触れ合うことができて喜ばれていました。男の子とは何度もハイタッチをするなど、孫と遊ぶおばあちゃんのような、やさしい顔になっていました。



4

施設に帰所後、「今日は楽しかったー!池の広い公園に行ってきたー。お花も沢山咲いて、とてもきれいだった。」とお隣の席の方や職員にも満面の笑みで話されていました。



Goal

この企画を行って

コロナ禍もあり、なかなか入所者様を外に連れて行くことができない時期が続きましたが、このような企画により、今回は柴田様をお連れすることができて、満足の笑顔を見ることができて、とても良かったと思いました。施設の中だけでは、どうしても気分が下がってしまうこともあると思いますので、企画に限らず、外出活動をする事で気分転換ができる環境を作っていきたいと思えた一日でした。また、施設の中では見られない入所者様の一面も見ることができて、とても良かったと思います。

(西棟広報委員: 野中 将司、堀江 輝)

Volunteer

草刈りボランティア

令和7年4月29日に天理教福岡地区福岡東支部の皆さん41名が、草刈りのボランティアに来てくださいました。毎年ボランティアに来ていただいている天理教の皆さん。普段職員だけでは手の届かない隅々まで、とてもきれいにさせていただきました。ありがとうございました!!



日本赤十字社福岡県支部
特別養護老人ホーム

やすらぎの郷

〒811-2208 福岡県粕屋郡志免町大字吉原600番

TEL.092-936-2022 FAX.092-936-2135

ホームページ <http://yasuraginosato.org/cgi-bin/index.cgi>

令和7年7月発行

